

アートと 障害を考える ネットワークフォーラム 2023

令和5年

11.3 金・祝

13:00~16:10 (開場:12:45)

滋賀県立美術館 木のホール

(滋賀県大津市瀬田南大萱町1740-1)

参加費

入場無料 (定員70名・事前申込)

会場開催

+ ライブ配信※

後日アーカイブ公開※

*全てに手話通訳あり *ヒアリングループあり



※YouTubeにて配信

詳細は下記HPをご覧ください。

滋賀県HP

<https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/koho/e-shinbun/oshirase/333658.html>

滋賀県立美術館HP

<https://www.shigamuseum.jp/events/5919/>

アートと障害。

作品はどのように生まれ、

そして、

どのように社会に開かれるのだろう

お申し込み方法

- 1 しがネットでのお申し込み
先着順

申込はこちら→



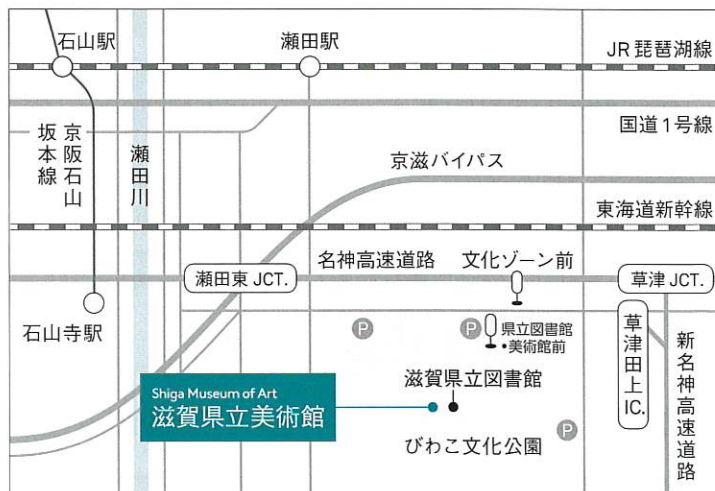
- 2 FAXでのお申込み

代表者の氏名・電話番号・FAX番号・合計参加人数

「アートと障害を考えるネットワークフォーラム参加希望」と記載の上、問い合わせ先までお送りください。

ご利用案内・アクセス

- 公共交通機関をご利用の場合: JR琵琶湖線(東海道本線)「瀬田駅」(京都駅から普通電車で約17分)下車、「大学病院」行きのバスに乗車(約10分)、「県立図書館・美術館前」または「文化ゾーン前」下車(便によって停まるバス停が異なります)、美術館までは徒歩5分
 - お車をご利用の場合: 新名神高速「草津田上インター」から約5分
- *なるべく公共交通機関をご利用ください。
*お身体の不自由な方は、びわこ文化公園東駐車場の有人ゲートからお車を乗り入れて、美術館までお越しいただけます。
*ご参加にあたり、サポートが必要な方は事前にお問い合わせください。



主催
問い合わせ先

滋賀県文化芸術振興課美の魅力発信推進室(滋賀県立美術館内)

TEL.077-543-2111 FAX.077-543-2170 E-MAIL sc0003@pref.shiga.lg.jp

オープニング Opening [13:00~14:00]

《聞こえない木下さんに聞きたいいくつかのこと》について

百瀬さんが2013年武蔵野美術大学卒業・修了制作展で発表した映像作品。作品中では、聾者である木下さんと、聴者である百瀬さんとの「声」をめぐる対話がりひろげられます。同作を鑑賞の上、発表から10年たった今、この作品の現在地について話します。

*《聞こえない木下さんに聞きたいいくつかのこと》は、会場でのみ上映します。配信での上映はございません。

登壇者



百瀬文(聞こえない木下さんに聞きたいいくつかのこと)2013
個人蔵©Aya Momose

木下 知威 [きのした ともたけ]
(歴史学者)

歴史や建築の視点で日本における障害者の身体と言説・コミュニティに関する研究を行っている。

百瀬 文 [ももせ あや]
(アーティスト)

映像内で映像の構造を再考させる自己言及的な方法論を用いながらコミュニケーションの複層性を扱う。近年は映像に映る身体の問題を通してセクシャリティやジェンダーへの問いを深めている。

聞き手

山田 創 [やまだ そう] (滋賀県立美術館学芸員)

セッション 1 Session [14:10~15:00]

アーツカウンシルの視点

行政と現場の橋渡しともいえるアーツカウンシル。東京・静岡・宮崎での活動事例の紹介やアーツカウンシルとアートと障害との関わり方について話していただきます。

登壇者



榎野 展正 [くの のびまさ]
(アーツカウンシルしずおか
チーフプログラム・ディレクター)

広島県生まれ。著書に『超老芸術』『アウトサイド・ジャパン 日本のアウトサイダー・アート』『アウトサイドでいきている』など。総務省主催「令和3年度ふるさとづくり大賞」にて総務大臣賞受賞。

登壇者



山森 達也 [やまもり たつや]
(アーツカウンシルみやざき
プログラムディレクター)

神奈川県生まれ。静岡文化芸術大学大学院文化政策研究科修士課程修了。2011年認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ入社。2019年6月アーツカウンシルみやざきプログラムオフィサーを経て2020年4月より現職。
撮影:緒方秀美

聞き手



大塚 千枝 [おおつか ちえ]
(アーツカウンシル東京 活動支援部 相談・サポート課長)

大学院(文化人類学)修了後、劇場や多様な舞台芸術事業に制作者として従事。2017年より厚生労働省障害者文化芸術計画推進官、2022年より日本財団DIVERSITY IN THE ARTS/パフォーミングアーツ事業部長を経て2023年4月より現職

セッション 2 Session [15:10~16:10]

家族の視点

障害のある人の創作は生活と区別がつかないことがあります。家族の視点から「子どもの作品はどのように生まれ、どのように社会にひらかれていたのか」について語っていただきます。

登壇者



上土橋 真由美
[かみつちばし まゆみ]

やまなみ工房で制作活動をする
上土橋勇樹さんのお母様。

登壇者



藤岡 浩子
[ふじおか ひろこ]

紙を1mm以下の間隔で切る制作で
知られる藤岡祐機さんのお母様。

聞き手

保坂 健二郎 [ほさか けんじろう] (滋賀県立美術館ディレクター)

アートと障害を考える
ネットワークについて

「アートと障害を考えるネットワーク」では、障害のある人による美術表現を軸に、多様な表現や鑑賞のあり方の可能性を考え、ひいては共生社会の実現にも資する情報提供を行っています。

アートと障害を考えるネットワークでは
新規会員募集中です!

お申し込みはこちら
<https://www.pref.shiga.lg.jp/ppan/bunakasports/bunkageizyutsu/330759.html>

